

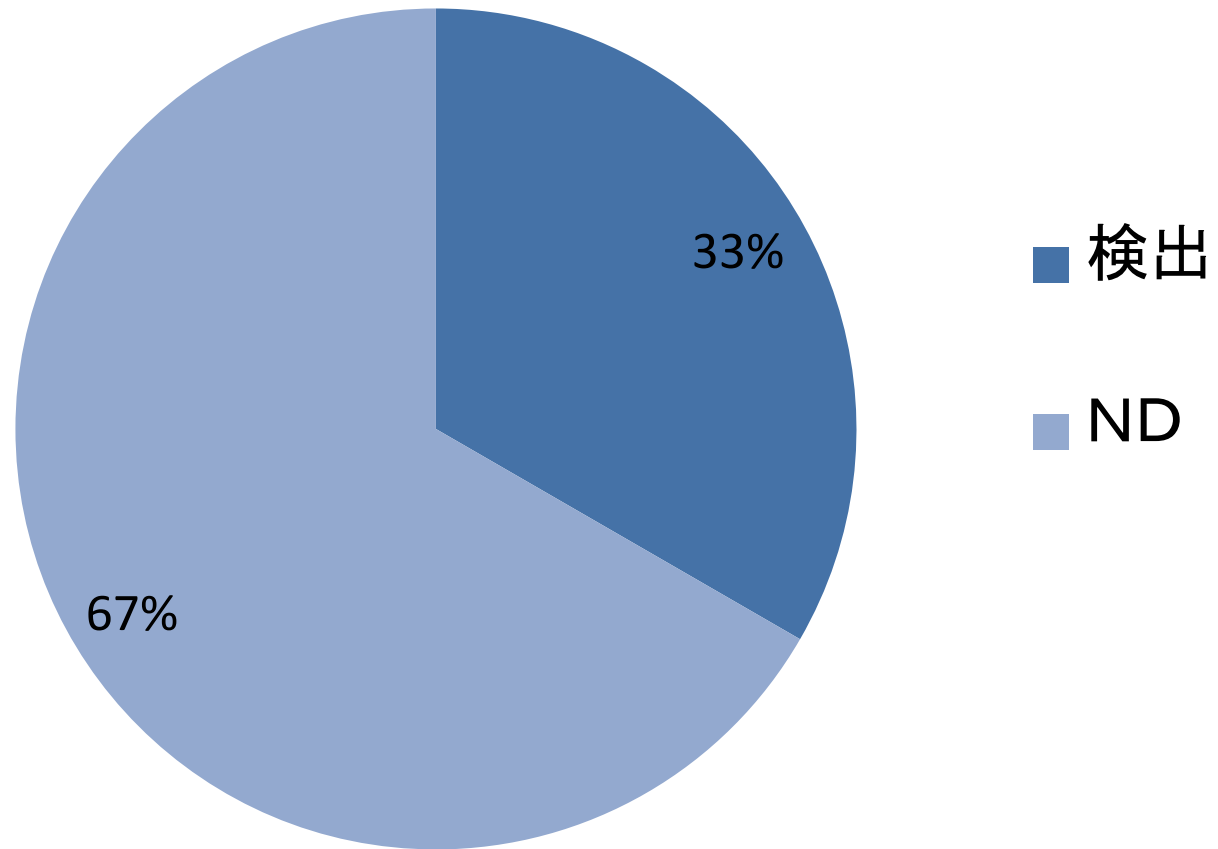
三郷市民 希望者
尿中セシウム検査結果
と
医師有志の提言(その3)

2011年11月21日
三郷のこどもを放射線から守る連絡会
医師有志

はじめに

- 3/11から 9ヶ月 原発事故 終息のめどがたっていない。放射性物質の流失が続き、汚染が拡大している、米への汚染なども
- 三郷市 9月以後、放射能対策室が設置され、放射線測定の拡充、除染作業が進捗。市・対策室の活動は、評価される
- 全国的にも、除染が重要と、対策が強化されてきている。
- 「放射線物質汚染対処特措法汚染状況重点調査地域」を受ける事を決定
- 親たちの不安は、強く、安全・安全と言われれば言われるほど、不安になる。汚染の少ない地域の避難・転居が...
- 放射能対策で、育児・家庭生活などに影響
- 親たちの希望で、10月に尿Cs、I、母乳Csを測定し、結果が出た

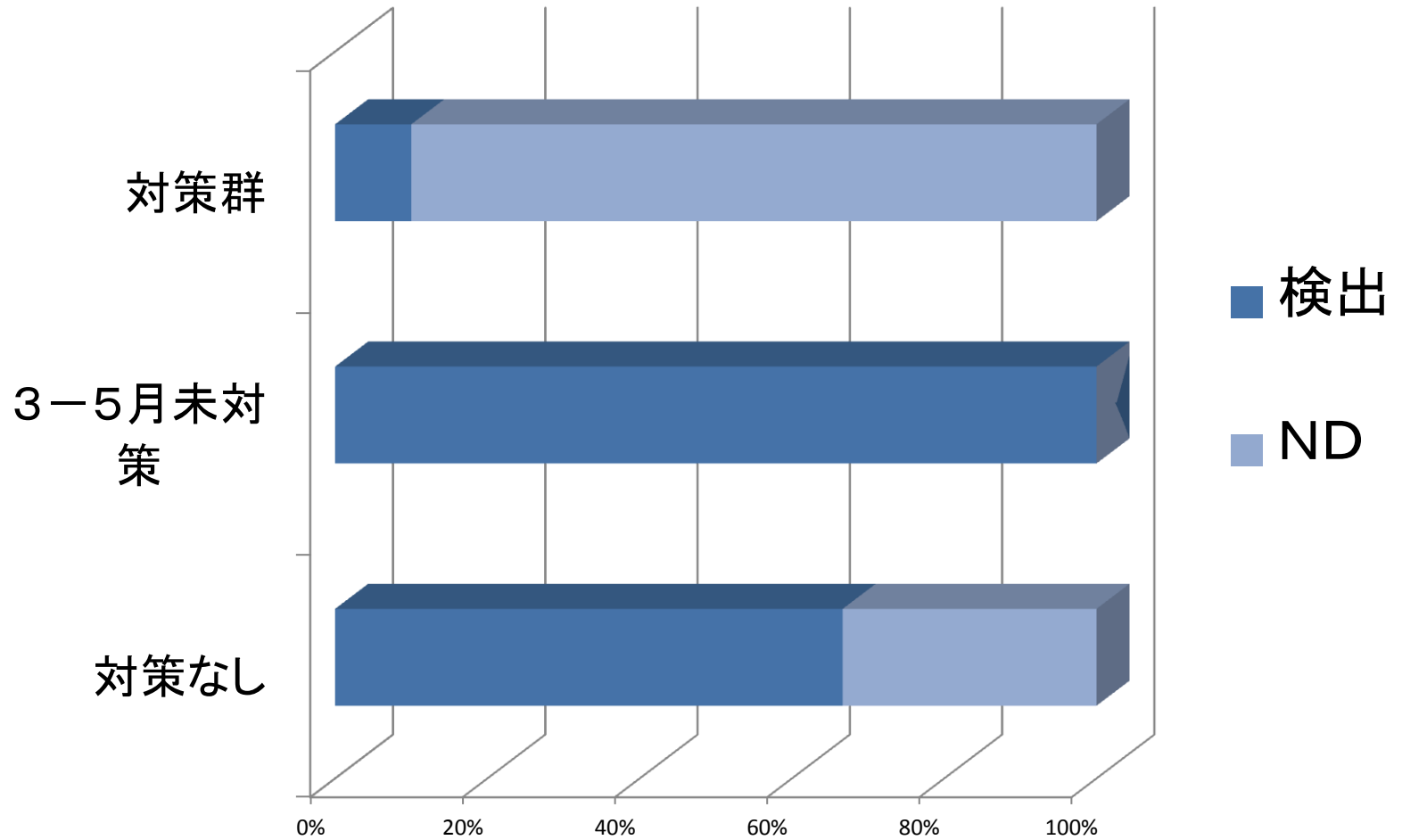
尿中Cs137検出率 33%



対策別 尿中Cs検出率

未対策群66% 初期未群100%

対策群10%



どう評価するか

- 1 本来、自然界にはないCsが、33%の子どもの尿から検出。母乳は検出せず。

福島原発由来のCsで、三郷市民が内部被曝

(ヨウ素131は未検出、半減期から排泄、初期であれば多分検出)

- 2 検出値は、微量であるが、8ヶ月経過時点。(Cs137、半減期30年だが、体内消失半減期は45-147日。(食品安全委員会・放射性物質の食品健康影響評価に関するワーキンググループ) 7-8月がピークとの福島の情報。)もっと高い時期があった。

微量でも、被曝・内部被曝は、閾値はないので問題、低い程よい

- 3 検出 放射能未対策群か不十分群に集中、対策取れば、(Csの新たな摂取を避ければ)、消失していく。

放射能対策が極めて重要である。除染・食べ物・飲み水。

(可溶性形態の経口摂取Csの90%以上が吸収される)

- 4 健康診断・健康相談の重要性

有志医師の提言(11月21日)

提言1 放射線「計測」について

- 計測器の誤作動・結果が低く出ている問題 国からの補助対象にも関わる。新しい機械での計測以後の値がより正しい、以前の値は遡って訂正すべき。あるいは不正確だったと公表を。
- 計測結果の全ての公表を

提言2「除染」について

- 幼稚園など含む子どもたちの生活する場を全ての除染を
- 道路・私有地なども高い場所は、通報あれば市が測定確認、除染

提言3 放射線対策 講演会を

放射線対策(除染・食べ物など)の専門家の講演を 市主催で

提言4 健康相談・健診について

食物を通じての内部被曝が心配、育児での不安がひろがっている。

食事・飲み物からの摂取を最小限にするために、個別相談・食事指導など、

また給食問題など、対策を強める必要。希望者に健康診断・尿Cs測定などを。